ふくりゅう

発行所　日本下水文化研究会運営委員会
発行責任者　酒井　彰（運営委員会副代表）
発行年月日　平成１０年５月２０日
印刷所　（株）愛甲社
編集　小松建司　高橋敬一　斉藤由勝
春号（通巻１１号）

平成９年度評議員会開催される

平成9年度の評議員会が平成10年3月28日（土）本郷学士会館で開催されました。

議事進行の議長を西堀代表議員にお願いし、議案審議に入りました。

（議案1）平成9年度活動報告を稲場代表と谷口副代表が説明、審議後了承されました。

続いて小松委員より（議案2）会員現況報告がされ、正会員は増えているものの賛助会員が減少していることがわかり、評議員より会員の充実に努力するよう指摘がありました。

（議案3）平成9年度収入支出状況報告及び会計監査報告が栗田委員より、2月末日の決済なので、正式なものは、下水文化研究10号の誌上で決済されることの説明があり、評議員より収支がぎりぎりのところで運営されていることに懸念され書籍等の会員への無料頒布や、原価販売について一考するよう意見がありました。

（議案4）平成10年度事業計画について、酒井委員より説明がなされた。毎年行われている事項のほかに、「基本問題検討委員会の設置」ということで、

・中期的事業案の策定
・バルトン没後百年記念特別企画（1999年度）
・NPO法に基づく法人格取得の検討
・水文化関連交流集会の開催準備
・海外の下水文化（開始途上国、先進国の水管理、遺跡）に関する調査

があげられました。

また、その他に「家庭内有害物質の取り扱いに関する小冊子の刊行」、「ネットワークづくりのためのインターネットホームページの開設」、「雨水利用市民フォーラム（8月8日）への参加」、「シンポジウム〈下水道に関わる文化・歴史の保全と承継〉（仮称）の開催」、「英文名称、レターヘッド及びロゴマークの設定」が、新たな企画ということで審議され、了承されました。

（議案5）平成10年度予算について（議案4）が了承されましたので栗田委員から説明がなされ、了承されました。

（議案6）平成10年度運営委員の構成について、稲場代表より提案され、代表は稲場氏、副代表は谷口氏のほかに、酒井氏が指名され、酒井氏は、谷口氏に替わり運営委員長になります。また、新たな委員として、桂川雅信氏、斉藤由勝氏、高橋敬一氏、鈴木直子氏、小嶋公史氏（小嶋氏は後日指名）が指名されました。北川氏は退任されました。総勢20名、関西支部11名が了承されました。

以上の議案が終了した後討論があり、水環境保全のために市民と行政の橋渡しをしようという本会の役割が、ますます重要な位置を担うところにきているという認識を運営委員一同新たにしました。

（記　小松）

今年度の運営委員ですよろしく

（50音順敬称略）

石井明男	鈴木直子
稲場紀久雄（代表）	妹崎大次郎
桂川雅信	高橋敬一
木村淳弘（副代表）	高橋正宏
栗田彰	谷口尚弘（副代表）
小嶋公史	照井仁
小松建司	新澤紀昭
斉藤由勝	古畑義正
酒井彰（副代表）	柳下重雄
佐野廣一	山出康洋

《関西支部》

浅田正則	高橋正宏
稲場紀久雄	中川広
上ノ土俊	中村正久
加賀山守	長谷川直幸
木村淳弘	村田秀太
祖開保	

商学部で教えるということ

酒井　彰

昨年4月より、流通科学大学商学部に着任いたしました。社会に出てから21年間上下水道コンサルタント会社に在籍しておりました。この間携わってきたことと申しますと、下水道計画や下水処理施設の設計が中心でしたが、数年前から、地域における水の管理というものを、下水道ばかりでなくもう少し広い視野からとらえてみたいというようなことを模索してきてはおりました。しかし、まだその成果も十分に出ているとはいえない状況にございました。こんな経歴からしますと、とても商学部で教鞭を執るなどということは夢にも考えていなかったことで、初めてこの転職の話をもちかけられましたときには大いに逡巡いたしましたが、前任の先生から、これからの大学教育において文系、理系と分けられる時代ではないということをお聞きし、また大学の方でもそのような方針をもっているのであるなら、役に立てることもあるだろうと思いお受けすることに致しました。まあ、世の中でも僕は理系出身だからとか、言っていられない時代であるのは確かなようです。

ちょっと、周りをみてみましても本会の稲場代表をはじめ、工学部出身の先生が、文系学部で教鞭を執られることは、だんだんレアケースと言えないようになってきているようです。そうしたなかで、主に経済学に多いようですが、そちらの専門領域へ転身されている先生も少なくありません。私など、別に商学（これがどういった学問なのか、まだよく分からないでいるのですが）を教えているわけではありませんし、講義の中味も私がこれまで学んできたことから新たな分野へ大きく踏み出しているなどというわけでもありませんから、中途半端なのかもしれません。ですが、文系、理系と分けられないとういうことは、教育という面で、何でもかんでも専門分化、細分化するのでなく、中途半端さも求められていることであって、今はこれを磨いていかなければと思っています。

さて、大学へ参りまして1年間が経ちました。この間、多くの方から尋ねられましたことは、いったい商学部で何を教えているのかということです。学部での担当科目についてお話してみましょう。ひとつは、「地域計画論」というものです。これからは、地域がその地域にとって何がよいかを独自に考え、横並びではなく競争していく時代になっていくだろう、そして企業も地域のなかで重要なポジションを占めていくような時代になるだろうとの認識で、環境や、防災などを題材に、学生が地域をどうとらえていくのかを考えてもらいたいと思っています。

もう1科目「リゾート開発論」というものを担当しています。私が属しておりますのは、おそらく日本で唯一のサービス産業学科と申しまして、福祉と観光をメインにしているようです。そのなかで設けられている専門科目のひとつでなのですが、リゾートと環境、リゾートを取り巻く社会環境などといった講義内容はすぐ思いつきました。また、これまで行われてきたリゾート開発への批判については枚挙にいとまが無いところですが、批判ばかりしていても講義として成り立ちません。そんなわけで、この科目を通年で講義するというのは、なかなか容易なことではなかったというのが実感です。最近観光学部なども他大学で設置されていますが、観光学というものには、商学系、社会学系、そして地理学系の観光学があるそうです。こんなことも講義がほぼ終わるころに知ったのですが、商学部でありながら、自分にはもともと商学系の観光を講義することはできないと思われます。そこで、とかく批判の対象になっているリゾートの問題を考え直すには、改めて豊かさとは何か、人にとって余暇とは、またゆとりとは何かを考えることから始める必要があるだろうとの認識で望んでいます。リゾート開発がどうやればうまくいくかなどという答えは簡単であるはずありませんから、学生と共に考えようというスタンスで何とかやってきています。でも講義はどうしても一方通行になってしまいますが。

この1年間は、自分にとりまして、今までとは違った環境のもとで、新しい勉強の機会であったと思います。講義の方はいろいろな書籍から寄せ集めでやってきたところもありますが、今振り返ってみますと、これまで直接関係してこなかった内容を講義するのと比べ、環境のことなど、まがりなりにも思い悩んできたことを教えることの方が、かえって難しいものであると感じています。（これも専門分化させられてきてしまった結果だと思います。）その伝えにくいところを伝えることにこそ、今の大学で教えている、あるいは若い世代の人と共に考えていく意義があるように思います。

とくに、私が携わってきたような技術システムを、学生を相手に伝えることは容易でないようです。このことは、社会システムのなかに技術を位置付けるという課題とも相通じるところがあるように思います。今年からは、ゼミの学生とも付き合っていかなければなりません。そんななかで、技術と社会の関わりについて新たな角度から考えていくとともに、先ほど述べましたような、地域水管理という研究テーマにも反映させていければと思っております。

なかなか地に足がつかないまま、転職後の1年間が過ぎてしまったような気がします。本年度より、本会での大役も仰せつかってしまいました。ある意味では、会の仕事と、今の職業、転職前と比べても、私のなかでは密接につながっているように思います。会員の皆様からは、今後ともご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

第２回定例研究会開催

第２回定例研究会が1998年２月27日日本水道協会３階会議室で開催されました。講師は、地田修一氏（東京都下水道局砂町水処理センター所長）で、「私の下水道心象風景」－絵図、写真からみる下水道の足跡－　と題し講演をなされました。

これは、氏が技報堂出版より出されました「江戸・東京の下水道のはなし」の冒頭に書かれたプロローグ　－下水道心象風景－に書かれなかったことを中心に、その後、調べられたことを交え、１時間半にわたりお話しして頂きました。

その時、20ページに及ぶ資料を配布しましたがその多岐にわたる資料の豊富さには、私も脱帽してしまいました。詳しくは下水文化研究10号に掲載されますのでそちらを参考にして下さい。

情　報　コーナー

ちくま学芸文庫「幕末・明治の写真」小沢健志編
第17章　バルトンと鹿島清兵衛

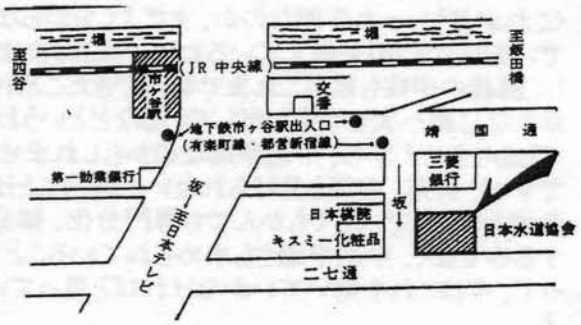
この中に、濃尾大地震のことが載っており、一冊の本にしたことも書かれています。

また、鹿島清兵衛がパトロンとなって、日本写真会を創りその書記をしていたそうです。

バルトン撮影　日本の女

98年度第1回定例研究会のお知らせ

テーマ　「アル・ゴアの環境思想」
講　師　稲場紀久雄氏
日　時　6月19日（金）18時30分～
場　所　日本水道協会ビル8階第4会議室
　　市ヶ谷駅下車徒歩3分
会　費　無料（会員以外の方も歓迎します）



（市ヶ谷駅より徒歩約３分）

水戸のご老公が創設した水道
～『水戸の水道を訪ねて』から～

NHKテレビの日曜ドラマ『徳川慶喜』の視聴率は結構高いようだが、水道関係者にとって水戸の水道の歴史は気に掛かるところだろう。水戸市の水道部が発刊した『水戸の水道を訪ねて』(平成10年1月10日発行)は、その歴史を伝えて、なかなか興味深い。

この冊子によると、創設者は、水戸黄門として今なおお茶の間の人気者・光圀公である。建設は、336年前の寛文2年(1662年)に始まり、約一年半で総延長10キロメートルを超える暗渠の水道を完成させた。本管は、岩石を用いた樋で、要所に溜枡を設け、そこからは土管や木樋で配水した。なかなか合理的な構造になっている。336年も前なのに、わが国の水道の歴史の上では18番目。ちなみに江戸の神田上水は、1590年に出来ている。最後の将軍・慶喜公も笠原水道の水を使ったのかと思うと、水道関係者としては何となく嬉しくなる。

適当な定例研究会の機会に、この冊子を発行した水戸市水道部の方から、水道創設とその後の変遷、あるいは水戸の弘道館や借楽園を造った水戸斉昭公や幕末動乱に散った志士達の顛末を聞かせて欲しいものである。この際、紙面を借りて、お願いしておきたい。

（この冊子は31頁。他に古地図2枚。カラー写真多数が収録されている。縦約25センチ、横約16センチの変形。立派な製本で、発行者の水道に対する愛着の気待ちが伝わってくるようだ。）

（たでくら虫a、98年5月5日記）

◀朝日新聞 98／2／27

多摩川のコイ 精巣異常

環境ホルモンの影響か

3割、極端な小ささ

府中市内で学者グループが調査

▼東京新聞98/4/29

生殖機能侵す化学物質

精子減少 世界で報告

研究推進へ学会旗揚げ

6月にも発足

マスコミ情報

▼サンケイ新聞98/4/2

貯水槽がトイレに〝変身〟

新宿区が災害対策 全国初のシステム稼働

「防災貯水槽」「雨水流出抑制槽」近くの地下に、テント式簡易トイレを埋設した雨水流出抑制槽のタンクに、雨水流出抑制槽のタンクに簡易トイレ用開口部を設置。

緊急時に開口部をあけ、地下から出したテント式トイレを取り付け、雨水をためる槽が汚物槽に早変わりする。二十四万人の使用に対応、車イスの人も使えしている。

区では昨年十二月、区立公園のトイレが、やはり災害時などには緊急用にたくさんの人が使用できるものに早変わりする設備を設置。

◀東京新聞 98／2／24

大名屋敷の排水路を復元保存

江戸初期 新宿・荒木町に構築

重さ1トンの石組み 区の文化財に指定

足立区の石工・森田さん親子が作業

旧横浜居留地の下水道マンホールが
初の登録文化財に！

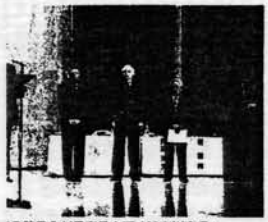
文化庁の堀　勇良さんから4月22日、嬉しい便りがありました。旧横浜居留地の煉瓦造下水道マンホールが下水道施設としては初めて国の文化財建造物として登録されることになった、とのことです。4月21日に開かれた政府の文化財保護審議会で登録文化財として文部大臣に答申することが決まったためです。5月中に正式登録の運びとなるようです。

本会にとっては朗報で、何よりも先ず会員の皆様にお知らせします。それにしても、今回の政府の決定には、堀さんの目に見えないご苦労があったものと推察されます。本当にありがとうございます。紙面をかりて、御礼申し上げます。

堀さんのお話では、上水道施設はかなりの都市で登録文化財になっているのに、下水道施設の方は容易に候補が上がって来ないそうです。歴史が浅いためか、意識が乏しいためか、それとも両方なのでしょうか。それにしても先人の思いを未来の世代に伝えるために、可能な限り登録文化財として継承して行きたいものです。

ともあれ、この次は、東京都の三河島処理場を指定して欲しいものです。日本最初の、首都東京の近代下水処理場であり、わが国の近代文化遺産として世界に誇り得るものではないでしょうか。東京都の教育委員会のご理解を得て、速やかな文化財指定を期待したいものです。

(たでくら虫a、98年4月29日記)



人類共通の財産に

関心高める努力を

横浜で国際シンポ

修復へ人材の育成を

求める支援協力態勢

中区のマンホール、保土ケ谷区の旧配水施設

横浜市内で2件

国の登録文化財に

▲神奈川新聞4月22日

お知らせ

21世紀は雨水の時代 と題し雨水利用自治体・市民フォーラムに当会も参加することになりました。

日程は、8月7日（金）～9日（日）まで墨田リバーサイドホール・墨田区役所で行われます。

7日は、9:30～17:00雨水利用自治体フォーラム。

8日は、雨水利用市民フォーラムで10:00～16:00まで。

9日は墨田コースと埼玉コースに分かれ雨水利用の現地視察が予定されています。当会は、どのような形で参加するか企画を練っているところで、 皆様の積極的な参加を待っております。 詳しい情報を知りたい方はは酒井彰まで

Tel&Fax　045-962-3873

E-mail　asakai@mb.infoweb.ne.jp

ＮＰＯ法について

今年３月の国会でＮＰＯ法案が可決しました。

ＮＰＯってな～に

Non-Profit Organizationの略です。利益配分を目的としない民間組織を指します。当会でもＮＰＯ法（特定非営利活動促進法）による法人資格を取得するかどうかの検討に入っています。ご意見等ございましたらどしどしお寄せ下さい。

お知らせ

平成10年度の会費請求を予定しておりますが、少々遅れています。現在財政が逼迫しておりますので、できれば事前納入に御協力していただけますとありがたいのですが。

問い合わせ先　施設管理部管理課庶務
栗田まで
Tel　03-5320-6612

会費納入先

郵便振替　口座番号　00130－5－756159
名　　称　日本下水文化研究会
銀行振込　富士銀行　本店　東京都庁出張所
(店番号777)　口座番号(普通預金)9505375
名　　義　日本下水文化研究会　栗田　彰

ISSN(国際標準逐次刊行物番号)の登録しました。

国立国会図書館よりISSNの登録をしませんかのお知らせを受けて登録をいたしました。書籍は「下水文化研究」で番号は、ISSN1343-6759です。今度発行される「下水文化研究第10号」から使用することになります。

本下水文化研究会連絡場所の変更

(社)全国上下水道コンサルタント協会の移転に伴い、当会の連絡先も下記のように変更になりました。当分の間、郵便物は回送されます。

〒106-0047 東京都港区東麻布1－8－7
平和堂ビル別館3階
℡　03-3584-0919(変更なし)

編集後記

編集委員がパワーアップされた。前任の新沢氏に替わり、高橋氏、斉藤氏が加わった。そして、さらに会報だけでなく、機関誌の編集も手がけることとなりました。よろしくお願いします。

(建)

下水道の変遷を説明する際、東京都下水道局の資料とは別に、「下水文化叢書」などの出版物が大変参考になると思います。今回、その「会報、刊行物」のお手伝いをすることになりました。力のある先輩の中で仕事をするので、楽な気持ちでと考えています。よろしくいします。

(敬)

「6×9」を買った。
ブツ撮りに精をだすゾ！

(サイトー)

募　集

日本下水文化研究会の英文名称、レターヘッド及びロゴマークを募集しています。応募は、この3点のうちの1点だけでも結構です。奮って応募して下さい。採用の方には粗品進呈いたします。締め切りは8月いっぱいとさせていただきます。

申込先

〒135-0016　東京都江東区東陽7－1－14
東京都下水道局東部第一管理事務所業務課
小松　建司
FAX　043－294－6127
E-mail　k-komatsu@pop12.odn.ne.jp

分科会発足　(仮称)し尿処理研究会

内容
・し尿処理の歴史(江戸～昭和)
・海外のし尿の動向
・し尿処理と文化
・下水道とし尿処理
・その他

興味のある方は参加して下さい。
会長兼事務局　小松建司
連絡先 Tel&FAX　043－294－6127
E-mail　k-komatsu@pop12.odn.ne.jp

会員の訃報

橋本　奨氏　享年73歳
平成9年6月5日死去

岩下　久生氏　享年62歳
平成10年3月3日脳幹梗塞のため死去

お二方のご冥福をお祈り申し上げます。

「ふくりゅう」では原稿を募集しています。身近な話題などでも結構ですので送ってください。又、「ふくりゅう」に対する意見等もどしどし送ってください。

〒135-0016　東京都江東区東陽7－1－14
東京都下水道局東部第一管理事務所業務課 小松　建司
FAX　043－294－6127
E-mail　k-komatsu@pop12.odn.ne.jp